

挑む!

ミカン農家

井上 信太郎さん(26)

名産地 フレッシュな魅力

都会から来た若者たちが村を歩き、農作業を手伝う。高級ミカン「田村みかん」の産地として知られる和歌山県湯浅町の田村地区に、そんな光景を生み出している。

海を望む高台にあるこの地区で生ま

れ育ち、昨春、200年続く「善兵衛農園」の7代目になった。紅葉のように色づき濃厚な味が特徴の「紅みかん」の栽培を父から受け継ぎ、栽培技術を磨きながら、高齢化が進む産地をいかに存続させるかを考えてきた。



卒業した田村小学校の同級生7人のうち6人がミカン農家。和歌山大学観光学部でミカンのブランドを学び、2年の研修期間を経て昨春に就農した。

築90年の空き家を改装し、宿泊や自炊が可能な施設「紀家わくわく」を昨年8月にオープン。ここを拠点に都会から来た学生らが農家と食卓を囲んだり、ミカンの摘果や収穫などの作業を手伝ったりするようになった。

施設を訪れた学生は、延べ1000人を数える。多くは、ミカンの消費量を増やそうと活動する学生の集まり「東大みかん愛好会」のメンバーだ。昨春にフェイスブックでその活動を知り、東京に会いに行き交流が始まった。

9月には、愛好会の学生らと協力して「日本みかんサミット」を町内で開催。約200人が集まり、栽培や流通、法人化などについて話し合った。「田村のファンを増やして、町の農家のやりがいにつなげたい」。そんな思いが町に人を引きつけている。

文・写真 大森浩志郎

記者から

ミカン愛あふれるミカン王子。ミカンのおいしさに衝撃。かんきつ業界に新たな風を吹かせて。